

天保二年壬辰正月六日

行年三十一才

瀬川菊之丞

道行とりへ山

鳥辺の露ときまめたと

やうじの用意 女はだには

白びくち上りせむひ

ちきらくのまゝ

ながきひちやせに

黒じゆすのおび

とじは十七 初花

のめめこじしんく

立姿 男もはたは白小袖

黒きりたすに色あねねあひひ

廿二の色のねかり染とこしやう

身はすて小舟のくろくろくへ

く井とつまなこ灘だのね止

そなたぞとこにゆへ身のしじまがみ